



一期一会

- 16 -

<http://www.toyonaka-osa.ed.jp/cms/jh15/>

ポジティブ・シンキング

冬季オリンピックが終わりました。活躍してメダルを取った選手も、惜しくもメダルには届かなかった選手もありました。誰も成し遂げていない大技に果敢に挑戦する姿に感動を覚えたり、若い選手の躍進に拍手を送ったり、前回からの連覇に喝采したりしました。

そんなオリンピックの中からひとつの競技について取り上げたいと思います。それは、銀メダルを獲得したカーリングです。カーリングはスポーツらしくないように見えるかもしれませんが、石を正確に投げる技術は、安定した身体と精神がないと難しいと言います。特に、スイープもする選手はデッキブラシのようなもので氷を溶かしながら1試合で2kmほども前傾姿勢で移動するため体力、持久力が必要で、その選手の自宅はジムのようなトレーニング器具がたくさんあるのだそうです。

さて、日本のロコ・ソラーレというチームですが、試合中の表情が他のチームと比べてとても明るいのが際立っていました。他のチームは「少しもミスができない」と緊張した厳しい顔で試合をしているチームが多かったのです。でもロコ・ソラーレは違いました。石を投げる瞬間は真剣そのものですが、その前後は大きな声で意思の疎通を図り、素晴らしいチームワークを発揮しました。石が止まるとすぐに笑顔になり「ナイスー」「いいんやじない」など大きな声でポジティブな（相手を否定せず元気づけるような）声掛けをいつもしていました。たとえミスショットをしても決して責めたり、暗い雰囲気になったりせず、お互いに励まし合う姿がありました。



出典:朝日新聞デジタル
https://digital.asahi.com/articles/photo/AS20220211002724.html?iref=pc_photo_gallery_next_arrow

ロコ・ソラーレは1年前の日本国内の予選で北海道銀行に敗れ、オリンピック予選を兼ねた世界選手権への出場権を逃しました。しかし北海道銀行が世界選手権で上位に入らずオリンピック出場権が取れなかったため、日本がオリンピックに出るためには世界最終予選で勝つしかなくなりました。世界

最終予選への出場権をかけ、再び北海道銀行と対戦して2連敗しましたが、そこから3連勝の大逆転で国内選考を勝ち、世界最終予選でも勝ち抜いてオリンピックのギリギリ2か月前に出場を決めたのでした。

このギリギリの逆境をはねのけた力は、やはりこのチームの持っている笑顔とポジティブな声掛けなのでしょう。オリンピックでも、失敗と思われるショットの後でも「ナイスー」「いいよ」とお互いに言いあっていて、ビックリしました。きっと失敗ショットは誰よりも本人がわかっている、ということを他のメンバー全員が理解しているからそんな声かけになるのでしょうか。

「失敗はあることだ、だから次にどうすればいいかを考えた方がよほど前向きな考え方なんだ。その方が強さにもつながるんだ。」
そんなことを教えてくれたように思いました。

私たちは何かトラブルが起こった時、「なんで」「誰々のせいで」と原因を考えてしまいます。もちろん失敗の原因を分析することは意味のないことではありません。しかし単に原因を他に求めるだけでは責任転嫁となってしまう、他人を責めて関係が悪くなったり、自分の中にある原因に目が向かず本当の意味での改善に向かわなかったり、ということも多々あります。

それならば「なんで、、」ではなく「どうしたら、、」と考えてみる。「どんな方法でやってみたら今の状況が良くなるかな」と考えてみるのです。その方が建設的であり、明るい気持ちで解決に向かうことができるのではないのでしょうか。そんな考え方を「ポジティブ・シンキング」と言います。

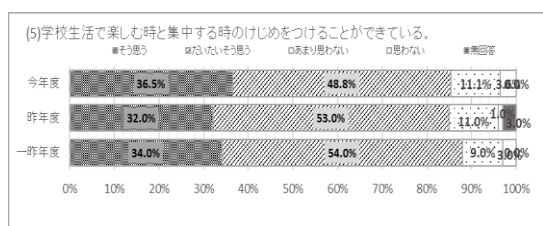
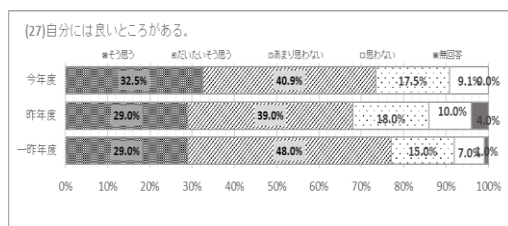
間もなく始まるパラリンピックでは、オリンピック以上に選手からポジティブ・シンキングを感じられるのではないかと思います。楽しみにしています。

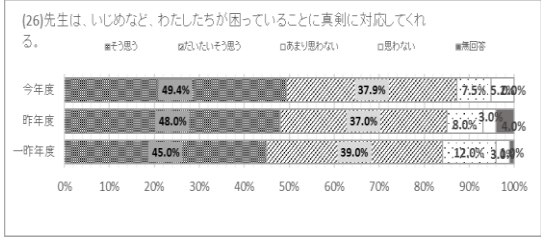
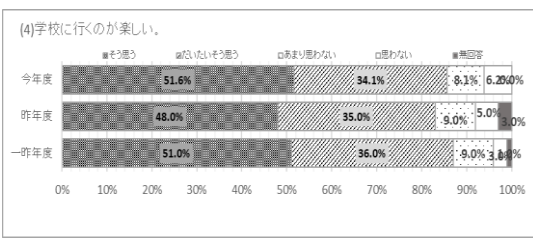
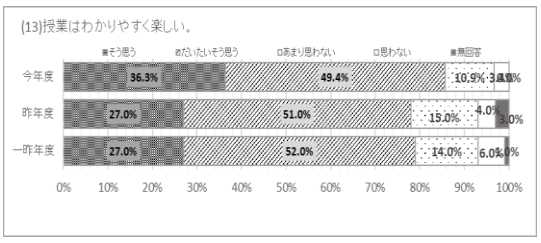
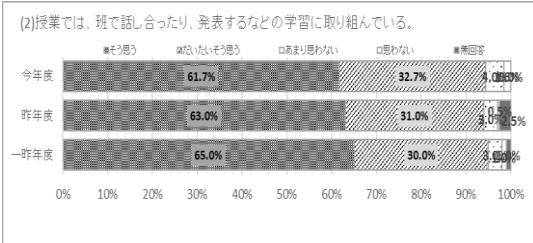
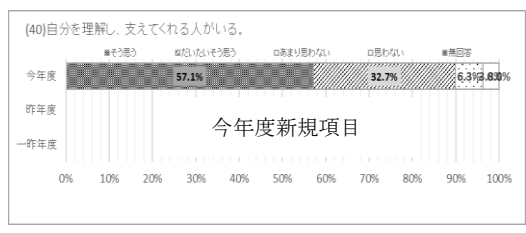
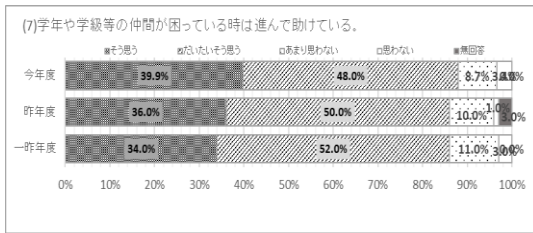
学校教育自己診断の結果

12月実施しました学校教育自己診断の結果を抜粋してお伝えします。全質問の結果は、近日中に学校ホームページに掲載いたします。お忙しい中アンケートへのご協力ありがとうございました。

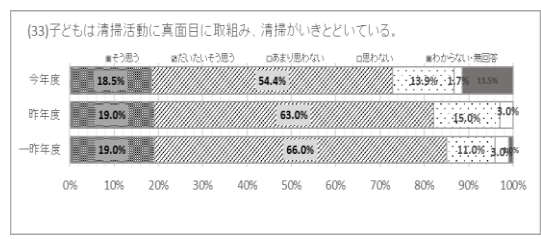
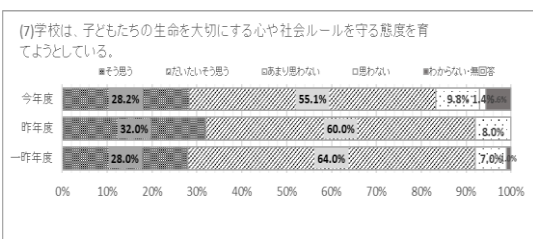
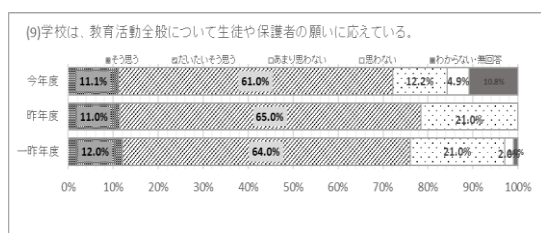
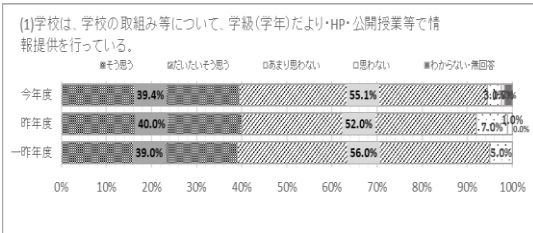
※グラフは左から「そう思う」「だいたいそう思う」「あまり思わない」「思わない」です。

■生徒アンケートから

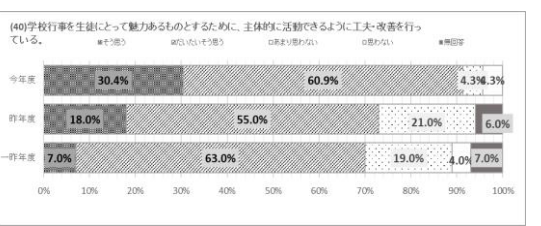
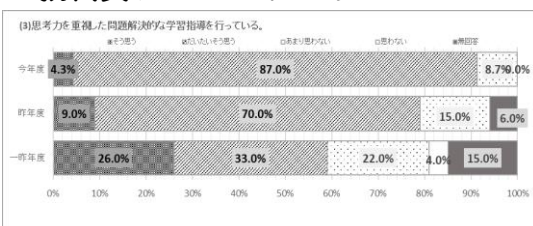




■保護者アンケートから (今年度「わからない」の選択肢を設けました。グラフでは右端です)



■教職員アンケートから



学校運営協議会が開催されました

2月16日に第3回の学校運営協議会が開催されました。

議題として

- ① 学校教育活動の紹介
- ② 学校教育自己診断と学校評価
- ③ 今後の学校運営協議会の取組みについて協議しました。

・②では学校教育自己診断のグラフをお示しして、その内容についてご質問を受け、学校としての成果や課題についてご意見を頂きました。
・③では、十五中のシンボルであるビオトープを「癒しの場」「協働の場」「学びの場」として活用することについて、委員の皆さんからの活発なご意見をいただきました。また、学習ボランティアや部活動指導員など、学校と地域が協働して子どもたちを育てる取り組みについて、その枠組みをどう作るかということについても意見の交流を行いました。

次年度も十五中はコミュニティスクールとして、学校運営協議会を開催して学校と地域とで一緒に子どもたちがのびのびと育つように考えてまいります。

オンラインセミナーのお知らせ

【共催】大阪府・塩野義製薬株式会社
世界自閉症啓発デー・発達障がい啓発週間 in OSAKA 2022

オンラインセミナー **もっと知ろうよ、発達障がい**

国連が定めた4月2日の「世界自閉症啓発デー」から4月8日までの一週間は、「発達障がい啓発週間」です。この時期に合わせて各地で様々な取組みが行われており、大阪府でも啓発イベントとして、オンラインセミナーを開催します。この機会にみんなで発達障がいのことを考えてみませんか！

日時：令和4年4月17日（日）
14：00～16：00
開催方法：オンライン（Cisco Webex Meetings）

「発達障がいの理解と支援」
講師 吉川 徹（よしかわ とおる）先生
愛知県医療教育総合センター中央病院 子どものこころ科 児童精神科 部長
発達障がいのある方が、学校を卒業し、社会の中で仕事や生活をしていく中で、どのような周囲の支援や関わりが必要か、分かりやすくお話いただけます。



定員 500名（先着順、事前の申し込みが必要） **参加費** 無料


申し込み方法 インターネットより下記の①か②の方法でお申し込みください。

① 下記URLか二次元コードから申込フォームへアクセスし、お申し込みください。

[URL] <https://www.shinsei.pref.osaka.lg.jp/ers/input?tetudukiId=2022010064>

② 大阪府ホームページより「オンラインセミナー もっと知ろうよ、発達障がい」で検索してもアクセスできます。

申し込み切 令和4年4月8日（金）
（※申し込みが定員に達した場合には、切前であっても申し込みを締め切ります）



大阪府が主催する市民対象のセミナーですので、どなたでもご参加いただくことができます。（ただし先着500名まで）